feel TEIKYO

あなたにつながる帝京大学　撮影・松本昇大

学生たちが授業を変える日本初の授業改善プログラム。

いま、大学の授業スタイルが見直されようとしています。ここ帝京大学八王子キャンパスの一室に集まったのは、SCOT（Students Consulting on Teaching）のメンバーたち。学生たち自身が授業を分析し、学生目線のアドバイスを先生に伝えることで、授業内容の改善をめざす活動を行なっています。今日は、授業改善を望む先生とSCOTが事前に行うカウンセリングを、学生同士でロールプレーする研修です。まわりを囲む学生も2人のやり取りから、授業を分析するポイントを探ります。日本では帝京大学が初めて導入したこのプログラム。そのきっかけをつくった高等教育開発センターの土持ゲーリー法一先生は、アメリカで開かれたファカルティ・ディベロッパーの会議でSCOTを知り感銘を受けたそう。「画期的に感じたのは、学生が主体ということ。学生たちは自ら行動することで、社会性を身につけていきます」と話します。

SCOTの活動は、先生から依頼を受けてスタートします。その内容は「授業の中盤以降に学生の集中力が切れてしまう」「語学系科目の音読に参加してくれない」など、さまざま。どのようなアドバイスを行うのか、SCOTコーディネーターの法学部、福田千鶴さんに聞いてみました。「私たちはまず授業を観察し、先生と学生の動きを時系列に記録していきます。その中で依頼内容に関係する原因を探ります。例えば学生の集中力が途切れる理由に、授業の流れが板書と教科書を行き来し、視線の移動が多すぎるということがありました。先生は無意識で気づいていなかったことを客観的に見極めて、改善のきっかけをつくります」。この活動を通して、礼儀やマナーはもちろん、言葉で状況を変えるコンサルティングの重要性に気づいたそうです。

そんな学生自身のスキルアップにもつながるSCOTを、土持先生と共に指導する井上史子先生は、教員と学生の授業に対する意識の違いについてこう指摘します。「授業で学生たちにできるだけ多くの知識を与えたいという先生が多いようですが、学生たちが求めているのは受け取った知識を自分の頭でもう一度咀嚼し、主体的に組み直すような授業。その違いはSCOTを導入することで浮き彫りになります」。今年3月にはアメリカからユタバレー大学、ブリガムヤング大学のSCOTを招いて、学生同士の交流勉強会も開かれました。世界に広がりつつある新しいプログラムは、大学を内側から変えるエネルギーとして働き始めています。

帝京大学
TEIKYO
本部広報課　TEL.03-3964-4162
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
http://www.teikyo-u.ac.jp

帝京大学のガイドブック2015をお届けします
「自分流」に学べる10学部29学科1短大。さぁ、興味の扉を開いてみよう！
請求先→ ✉ post@teikyo-u.ac.jp（本部広報課）
入試情報サイト→ www.teikyo-u.ac.jp/applicants/